四門会

第13号

聖マリアンナ医科大学
耳鼻咽喉科学教室同門会

目次

巻頭言

第51回日本宇宙航空環境医学会大会を開催させていただいて……教授 肥塚 泉 2

ご挨拶

平成17年度医局長挨拶……医局長 新谷 敏晴 3

本院、東横、西部病院外来担当表 …… 4

大学院生便り

大学院便り …… 島田 園子 6

最後の夏休み……北島 明美 6

便りその3……田中 泰彦 7

国内留学便り

癌研有明病院 頭頸科紹介……財団法人癌研究会附属病院 頭頸科 新橋 渉 8

IFOSに参加して

IFOSに参加して・ありがとう ……新潟県十日町病院 犬飼 賢也 9

ローマを訪ねて …… 大塚 崇志 10

おめでとう

3児の父になって …… 新谷 敏晴 11

関連病院通信

関連病院1番東のまち 銚子より……島田総合病院 小林 健彦 12

OB通信

芋川亭日常（乗）……芋川耳鼻咽喉科クリニック 芋川 英紀 13

新入医局員紹介

大阪から来ました ……東芝林間病院 矢野 裕之 15

研修医制度の中で …… 三上 公志 15

ありがとう

ありがとう ……西野耳鼻咽喉科 西野 裕仁 16

第15回日本頭頸部外科学会のご報告と御礼 ……新潟大学 高橋 姿 17

同門会会則…… 18

第8回理事会議事録 …… 20

編集後記 …… 岡田 智幸 21

題字 竹山 勇

巻頭言

第51回日本宇宙航空環境医学会大会を開催させていただいて

肥塚　泉

平成17年11月10日～12日の３日間、関内の神奈川総合医療会館で第51回日本宇宙航空環境医学会大会を開催させていただきました。聖マリアンナ医科大学が本学会をお世話させていただくのは２回目になります。平成９年に、第43回総会（今年から大会に名称が変更になりました）を第２生理学教室前主任教授吉岡利忠会長（現弘前学院大学学長）が開催されました。

今回の学会では特別講演とシンポジウムおよび特別セッションを開催しました。特別講演は日本宇宙航空環境医学会理事長、飛鳥田一朗先生の座長のもと、平沼高明法律事務所の平沼高明弁護士に「飛行機に乗り合わせた医師が、乗客の患者の治療を頼まれた場合の法的責任」をお願いしました。シンポジウム「Neurolab Before and After」では、日本大学総合科学研究所、五十嵐　眞先生の座長のもと、1998年にスペースシャトルコロンビアで行われたNeurolabに参加した日本人研究者を中心に、宇宙実験で得られた結果が現在の実験系に如何に反映されているのかについて講演していただきました。特別セッション「「日本とヨーロッパにおける宇宙医学研究の取り組み」では宇宙開発研究機構（JAXA、旧NASDA）宇宙医学グループ長の立花正一先生に座長をお願いし、アメリカ航空宇宙局（NASA）からはNASA Medical Opereation、ChiefのMike Duncan, PhD、ヨーロッパ宇宙開発機構（ESA）からはDidier Schmitt, MD, PhDおよびPeter Jost, MD、JAXA側担当者である泉龍太郎先生にご発表をいただき、活発なディスカッションが行なわれました。一般演題数も45題と、昨年、慈恵会医科大学で開催されました第50回記念大会とほぼ同じくらいの数の演題を応募していただくことができました。

今回の学会を開催するにあたり、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会（四門会）会員の先生方には物心共々ご多大なる援助をいただき心より感謝しております。この場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

平成17年度医局長挨拶

医局長　新谷　敏晴

本年度の医局長を命ぜられ半年が経ちました。改めて過去歴代の先輩先生方のご苦労が身に染みています。これまでの四門会の医局長挨拶の項を読み返して見ると、その年々に様々な医局にとっての一大事があり、如何にその大きな壁を乗り越えようとする意気込みが書かれております。本年度においては本院の電子カルテ本格起動、肥塚教室初の全国学会主催（平衡研修会はありましたが）、東横病院縮小、多摩病院開院といったところでしょうか。例年以上に盛りだくさんといった感があります。

電子カルテ「マリアⅡ」事業は、本院が一丸となって進められている一大プロジェクトです。点滴、採血、内服のオーダーはもちろんのこと、診療内容もコンピュータ上での記載になりました。所見の絵はすべて基本のテンプレートの上にマウスで書き加えます。稚拙な絵が更に稚拙になり、１人あたりの診療時間も1.5倍近くになってしまい、外来患者様にはご迷惑をお掛けしている状態です。ペンパッドによる入力など更なる改善を施し、負担を軽減したく考えています。

北部病院は「川崎市多摩病院」と名称が正式決定し、当科からは堤講師が筆頭で出向することとなりました。現在２月１日開院に向け、着々と準備が進んでいます。東横病院は12月末に内科、外科、産婦人科など一部の診療科を除いて閉鎖、立て替えになります。あの昭和中期の変に趣のある（特に部長室のある棟など）が取り壊されると聞くと、勤務経験のある先生方も寂しい思いをされるのではないでしょうか。

最後に宇宙航空医学会は、耳鼻科に特化された会ではありませんが、平衡機能と宇宙医学とに精通される先生が多数出席される学会です。現在は教授、北島助手（旧姓杉田、10月にご成婚されました）が中心となり準備が進められています。本年度四門会には良いご報告ができることを確信しております。

新入医局員も増え、当医局もますます活発になって参りました。これからもOBの先生方のご指導、ご鞭撻を、これまで同様お願い致します。また医局員先生方には代診などご迷惑を掛けっぱなしですが、引き続きよろしくお願いします。

耳鼻咽喉科外来担当表　平成17年11月現在

（　）内の数字は何週目かを示す

		月	火	水	木	金	土
午前	初診	肥塚 岡田	信清	大塚	新谷	堤	木内
	再来	北島 山口 向出	赤澤 高橋 春日井	北島 春日井	黒田 鈴木 向出	高橋 大塚（2、4） 黒田（1、3、5） 春日井（1、3、5） 鈴木（ー）（2、4）	信清 赤澤 山口
	特殊	中耳 顔面神経	頭頸部 腫瘍	咽頭 音声	扁桃 音声	めまい	味覚
		肥塚 新谷 木内 菱澤	堤 大塚 鈴木（毅）	信清 赤澤 （春日井）	岩武（1、3）	肥塚 岡田 服部（2、4） 鈴木（ー）（1、3、5）	大草（2、4、5）
	病棟当番	春日井	鈴木	山口	高橋	山口	北島

午後				鼻・副鼻腔 アレルギー	聴覚	
				木内 黒田 高橋 鈴木 宮部（2、4）	新谷 越智 釼持（2、4、5） 木下（1、3）	
	めまい検査	北島 向出	山口 三上			
	救急当番	春日井	杉田	山口	鈴木	高橋
		三上				向出

東横病院

○＝部長、●＝副部長、　　専門外来等

耳鼻咽喉科						
受付時間	月	火	水	木	金	土
8:30～11:30	越智● 小宅	沢田 斉藤 高津	斉藤 高津	越智● 斉藤	小宅 高津	医局員
13:30～15:30	聴覚 越智● 鼻・副鼻腔 小宅	手術	手術	手術	手術	

西部病院

○＝部長、●＝副部長、◇＝主任医長、◆＝医長、無印＝医員
　　＝専門外来等、（　）内の数字は何週目かを示す

耳鼻咽喉科						
	月	火	水	木	金	土
午　前	佐藤● 内田◆ 田中	佐藤● 富澤◆ 内田◆	佐藤● 田中 芋川（2、3）	富澤◆ 内田◆ 田中	佐藤● 富澤◆ 田中	佐藤● 富澤◆ 内田◆
午　後	中央手術	中央手術	中央手術	検査	検査	

関連病院

平成17年11月現在

西部病院	佐藤　成樹 富澤　秀雄 内田　　登 田中　泰彦	TEL 045－366－1111 FAX 045－366－1190
東横病院	越智 健太郎 小宅　大輔 高津　光晴 斉藤　　晋	TEL 044－722－2121 FAX 044－711－3316
聖ヨゼフ病院	俵道　　淳	TEL 046－822－2134 FAX 046－822－3134
東芝林間病院	矢野　裕之 東　　美紀	TEL 0427－42－3577 FAX 0427－42－6121
稲城市立病院	萎澤 えり子 中村　　学	TEL 042－377－0931 FAX 042－379－1310
済生会川口総合病院	杉山　　裕	TEL 048－253－1550 FAX 048－253－8940
島田総合病院	小林　健彦	TEL 0479－22－5401 FAX 0479－23－3613
水戸済生会総合病院	岡本　充史 深沢　雅彦	TEL 029－254－5151 FAX 029－254－9099
横浜総合病院	桑原　大輔 井原　佳美	TEL 045－902－0001 FAX 045－903－3098
秦野赤十字病院	大橋　　徹（客員教授） 服部　康介	TEL 0463－81－3721 FAX 0463－82－4416
共立蒲原病院	木下　裕継 宮本　康裕	TEL 0545－81－2211 FAX 0545－81－2208
癌研究会付属病院	新橋　　渉	TEL 03－3918－0111

大学院生便り

大学院便り

第３学年　島田　園子

今年、大学院３学年をむかえました。今年度より外来・病棟業務から離れ、ベッドフリーの期間をいただいて実験・研究をしています。現在は、難病治療研究センター加藤智啓先生のご指導のもと、生体機能・プロテオーム制御部門臨床プロテオミクス研究室にお世話になっています。プロテオミクスとは組織や細胞の蛋白質の集合体（プロテオーム）の網羅的な把握解析を目差すものです。詳細はすでに中村学先生、田中泰彦先生が以前にご説明されていますので割愛させていただきます。

現在私はCD69という分子についての研究をしています。CD69は末梢血リンパ球でのＴ細胞レセプター（TCR）複合体を介した刺激などによって刺激後１～２時間以内の最も早い段階で細胞表面で検出される活性化初期抗原として知られています。通常のリンパ球にはほとんど発現していませんが、活性化に伴いＴ細胞、Ｂ細胞、NK細胞やその他ほとんどの造血系細胞で発現します。この分子の特異的なリガンドはまだ同定されていませんが、広範囲にわたる分布や炎症性疾患で発現が増加することなどから、関節リウマチをはじめとする慢性炎症性疾患や自己免疫性疾患の病態生理に重要な役割があると考えられています。

耳鼻科領域での報告は多くありませんが、シェーグレン症候群においてこのCD69分子に対する自己抗体が確認されています。また、最近では中耳炎患者の末梢リンパ球や、慢性副鼻腔炎患者の鼻ポリープに浸潤するＴ細胞および末梢血Ｔ細胞にCD69が発現しているとの報告があり、当科的にも炎症性疾患の病態生理に関連していると考えられます。

プロテオミクスの手法は当大学内でも様々な分野の研究室で実施されており、当科でもアレルギー性鼻炎、再発性多発性軟骨炎、自己免疫性内耳疾患などに対しての研究がされています。今後、耳鼻科領域の疾患に対しても新しい切り口での研究に貢献できるのではないかと思います。

貴重な時間をいただきまして実験に没頭できる環境を与えられてことに感謝しつつ、これからも研究・勉強して参りたいと思います。今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

最後の夏休み

北島　明美

９月になり、私の夏期休暇が始まった。いつもならばスキューバダイビングをしに海へ向かうところだが、今年の夏は静岡に帰省した。10月の結婚を控えて実家の部屋の片付けやその他所用のためもあるが、なによりきちんと両親に挨拶したいと思ったからだった。

いつもと変わらぬ、のどかな静岡が私を迎えてくれた。実家に帰り、まずは祖父母の仏壇に手を合わせる。一緒に暮らしていた父方の祖父母は仏教だが、私の母はカトリック教徒であるので、な

ぜか家の仏壇を開くとキリスト像やマリア像まである。母いわく「神様は寛大なのよ。」だそうだ。そして猫嫌いだった祖母の写真の隣には死んだ猫の写真が飾ってある。「死んだ人は寛大なのよ。」だそうだ。

父と母、そして私の３人で久しぶりに夕食の食卓を囲んだそのとき、父の左手が明らかにむくんでいることに気付いた。

私：「ねえ！お父さんの左手すごくむくんでない？」

父：「そうかな？」

母：「最近お父さんたら、だらしないのよ。五十肩（65歳だが）になっちゃって。」

父：「うん、最近左手に力が入らない。」

母：「私が五十肩になったときは運動したら治ったわ。普段から運動不足よ、全く！運動しなさい。」

私：「いや…ちょっと…病気の原因は人によって違うんだから、明日必ずかかりつけの内科へお願いだから行ってちょうだい。」

そのまま放っておこうとする両親を説得し、なんとか翌日父を病院へ行かせた。…結果、脳梗塞で即入院であった。家に電話があり、私が病院へ行き、神経内科医からムンテラを聞き、入院に付き添った。…というわけで休み中も病院通いとなった。今後、さらに精査加療予定である。それにしても、私がたまたま地元に帰省していて本当によかったと思った。少しでも両親の役に立っただろうか。杉田明美としての最後の親孝行である。

便りその３

田中　泰彦

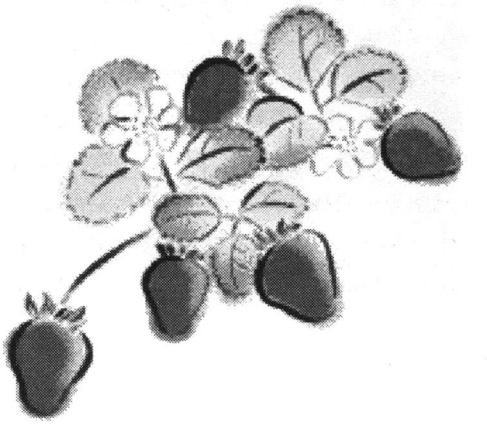
昨年は、この場をお借りし研究の概要の続報をお伝えしました。現在、大学院4年生として一昨年からの研究課題の論文を作成しているところです（未だに…）。

昨年の結果を再度見直し、最終的には患者特異的とみられるスポットは15個選定出来ました。そのうち現在のところ５個を同定することが出来ました。そのうち３個に関してリコンビナントタンパク質を作製しELISA法を行い、統計的解析を行いました。残りの２個に関してはリコンビナントタンパク質を購入してELISA法を用いてその抗原性を確認しました。

順調に事が運べば…この文章が会誌に載る頃には、掲載号が決定している筈…です。

また、昨年の文末に書かせて頂きました「自己免疫性内耳疾患」についてですが、本院の先生方、患者さんのご協力により血清を頂き、中村先生とともに、現在二次元電気泳動（今回は巨大ゲルです！）を行いこれからゲルのピック作業に入るところです。

今年度からは、研究室生活も終わり２年ぶりに西部病院にて診療を行わせて頂いております。研究に際し、西部病院の佐藤先生、富澤先生、内田先生のご理解とご協力にこの場をお借りして感謝いたします。



癌研有明病院 頭頸科紹介

財団法人癌研究会附属病院　頭頸科　新橋　涉

今回、国内留学便りということで2003年４月より勤務させていただいている癌研有明病院　頭頸科についてご紹介したいと思います。

癌研病院は、2005年３月に有明に移転しそれまでは豊島区の大塚駅から徒歩で10分ほどの場所にありました。初めて、病院に行った時はあまりに古い病院で少し驚きました。外来に菓子を置いておくと翌日にはネズミの晩飯になっているといった感じです。

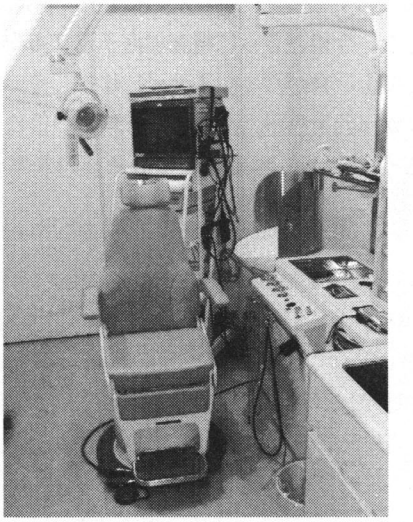
病院は1935年に日本で始めての癌専門病院として29床で開院いたしました。現在、頭頸科の病床は約56床ほどです。手術患者がメインですが、それだけではとてもベッドが埋まらず放射線、化学療法の患者も入っています。

医療者は全体で17人、うち耳鼻科医14人、口腔外科３人で構成されています。スタッフは８人、レジデント５人、研修医（全員無給です）４人と分けられております。出身大学は本当にばらばらで北海道から沖縄までと多彩で非常に雰囲気も良いところです。神奈川も、横市、東海の先生がいらっしゃいます。

手術件数は年間450～500件で、そのうち再建手術は約150件となっております。火曜日と木曜日が１日手術日で、再建手術や、頸部郭清などが行なわれ、水曜日、金曜日は午後のみでラリンゴマイクロサージャリー、リンパ節生検、良性腫瘍、甲状腺などの手術が行なわれています。

外来では下記の写真のようなブースが個室に分けられています。患者さんはPHSを受付で渡され、僕らが電子カルテにて「中待合や診察室へお入りください」というようなメッセージを流します。それを見て患者は行動するので、喫茶店にいてもよし、中庭でくつろいでいてもよいといった具合です。時々使い方がわからないおじいさんが、いつまでたってもこないなんてこともありますが…。

今後も頭頸部腫瘍の治療に携わっていける様、日々精進していきたいと思います。



IFOSに参加して・ありがとう

新潟県十日町病院　犬飼　賢也

平成17年６月25日から30日にイタリアのローマで開催された第18回世界耳鼻咽喉科学会議（IFOS）に参加・発表してきました。当教室関連施設からは肥塚教授、岡田講師、桑原先生、大塚先生、赤澤先生、私が参加しました（写真１）。

学会初日より会場の停電、座長の遅刻など運営の悪さが目立ちました。ポスターでは全会場で画鋲を３ケースしか置いていないという不備もありました。私もそういったあおりを受け、発表本番でコンピュータートラブルのためスライドの文字がすべて消えてなくなっており発表できませんでした。肥塚教授の交渉で翌日のめまいの群で発表することができました。教授には感謝です。

28日は肥塚教授がBPPVについて講演されました。素晴らしい発表で、諸外国の先生に非常に好評でした。心配していたコンピュータートラブル、停電もありませんでした。

学会運営はトラブル続きでしたが、学会会場で行われたMusic Festivalは完璧でした。会場がAuditorium Parco della Musicaというところで本来音楽会場でしたので音響が抜群でした。

ローマでの食べ物は日本人好みのものが多く、満喫しました。特にホテルの近くのピザ屋はお気に入りで毎日のように通いました。通う度に安くなる不思議なPizza Go Goという店でした（写真２）。

このIFOSで私は４回目の国際学会発表です。マリアンナで３年10ヵ月研究してきました。国際学会発表をはじめ、多くの貴重な経験をさせていただきました。肥塚教授をはじめ医局員の皆様、秘書・検査員・看護師の皆様、ありがとうございました。

写真１

写真２

ローマを訪ねて

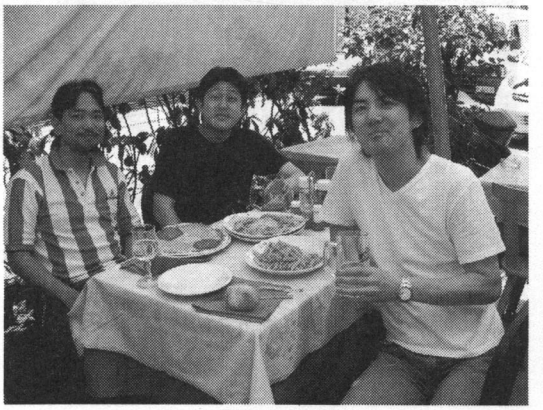
大塚　崇志

どうも、大塚です。不肖ながらもIFOS国際学会（ローマ）に参加させていただきました。参加メンバーは肥塚教授、岡田講師、犬飼先生、桑原先生、赤澤先生、大塚の６人でした。ローマに着き、まず思ったのが空気がよどんでいたことと、６月というのにものすごく熱気を感じたことです。イタリアってものすごくあつぅ～、と思っていたらどうやら記録的な暑さでわれわれの滞在時に数名の方が亡くなったそうです。６日間の宿はテルミニ駅近くの安ホテルで、桑原、赤澤、大塚の男３人１部屋でごろごろなんだか学生時代のようで、また海外ということもあり、普段の家庭・病院生活とはかけ離れていて、夢うつつな旅でした。学会は盛況で停電など（イタリアらしい？）ハプニングはありましたが、数々の著名な先生方を見ることができました。観光はローマ観光名所、ピザ屋、shopなど３人でうろうろしました。ローマに行く前にダン・ブラウンのベストセラー「天使と悪魔」を３人でまわし読みし、舞台となったサン・ピエトロ大聖堂、パンテオン、サンタ・マリア・デル・ポポロ教会、ナヴォーナ広場の四大河の噴水なども観光しました。

総じて、ローマはPIZZA!BEER!生ハムメロン!PIZZA! BEER!生ハムメロン!PIZZA! BEER!生ハムメロン!

学会会場にて集合写真
（肥塚教授・桑原先生・岡田講師・大塚・犬飼先生）

サン・ピエトロ広場にて
（赤澤先生・大塚）


テルミニ駅近くのピザ屋にて

ピラミド駅近くのピザ屋にて

おめでとう

3児の父になって

新谷　敏晴

まさか今回も四門会の原稿依頼を受けるとは思わなかった。しかも「3人の子の父になって」だって？確かにこの春我が家に双子が産まれた。長男出産記を掲載していただいた時には、3年後にこんな標題で原稿を書くことになろうとは想像すらできなかった。元々子供は好きなので、子沢山は歓迎すべき出来事だった（そりゃもちろん、エコーでGSが二つあると聞いた時はびっくりしたが…）。3人の静かな寝顔を見ていたら自然に目尻が下がっている自分に気付く。初めて笑った時は最高だった。しかし一度誰かが起きようものならばそんな穏やかな時間はほんの一息で吹き飛んでしまう。これが日々繰り返しだった。この半年は本当にあっという間だった。ただ半年たった今では、楽しかった事しか書けない。圧倒的にプラスの要素が強いからだ。そんな原稿を書いたところで皆様には単なる親バカの能書きとしかとられまい。

少々前置きが長くなったが、出産前に家内が管理入院した期間、長男と二人きりで過ごすという、もう今後二度と味わえないであろう経験をしたので、ここからは「にわか父子生活」と標題を変えて書いてみたい。

妊娠7ヶ月頃から家内のお腹は急激に大きくなり、子宮の張りも強くなったため、出産予定日の約2ヶ月前から家内はマリアンナに管理入院した。これまでは私が学会や研修に出席するために泊まりがけで出掛けることはあっても、1日すら家を空けたことのなかった家内がこれほど長期間不在になることは、非常に恐怖であった。通常業務こなしつつ、保育園のpick-up、drop-offをし、家に帰れば夕飯を用意し、風呂に入れ、寝かしつけ、夜中に洗濯機を回し、部屋中に干し、保育園への連絡帳を書き、朝ご飯を食べさせながらゴミ出しの準備をし、出かけるときに落としていく。（とまあ、こんな立派な事を書いてはいるが、半分以上は義母に泊まりがけで手伝っていただいたし、夕食のほとんどは義母の作り置きだった。）彼は朝のカンファレンスに急いでいる時に限ってよく愚図った。時計を見ながら焦っている私を敏感に感じ取り、余計に愚図る。「やっぱりママがいい！」と、まだ静けさ残る住宅街の駐車場で叫ばれた時には、こっちも泣きそうになった。なるべく大人しく乗ってもらうために、車のDVD Naviに毎日子供用プログラムを流した。休日には家内の見舞いに行き、帰りには鉄道博物館などアミューズメントプレスにも連れて行った。その時には楽しそうな顔をしてくれるのだが、夜寝呆けながら「ママ～」と呟いていたときは、けなげに頑張っている長男を誇りに思い、抱きしめた。そう、まさに70年代の映画「クレイマークレイマー」と同じ状況だ。ずっと昔に見たきりだったので話の内容は曖昧だが、ダスティンホフマンが慣れない手つきで子供にフレンチトーストを作っていた場面は不思議とよく覚えている。結局結末はどうだったか？離婚して母親に引き取られたんだったっけ？とにかく父親はどんなに頑張っても母親には叶わない。母親は偉大だ！と痛感した次第である。我が家の結末としては、双子は産婦人科先生方の手厚い治療のお陰で正期産である37週まで保ち、無事帝切で産まれた。1週間後には母子ともに退院し、更に忙しい日々が幕を明けたのである。

最後に、出産前後は医局員の皆様にはあらゆる面でサポートを頂きましたことを、この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。アメリカ出産、双子出産、様々なケースを経験させていただいているので、何かありましたらご相談ください。ちょっとは違ったsuggestionができると思います。

－関連病院通信－

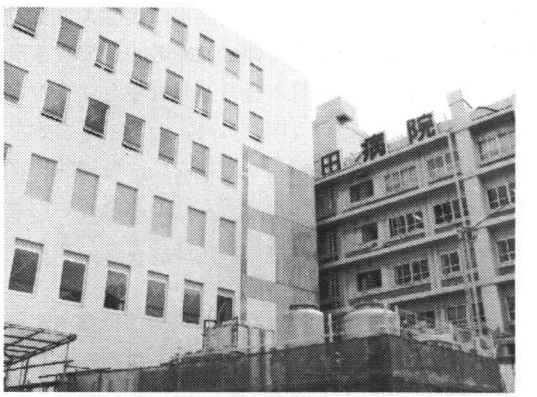
関連病院1番東のまち　銚子より

島田総合病院　小林　健彦

私は、平成14年４月より島田総合病院に常勤医として勤務して早いもので３年半となります。初年度は田中健二郎先生のもとで勤務し、その後２年間は井原先生とともに２人体制で勤務させていただいておりました。今年度は臨床研修制度の変更もあり、周辺の病院も耳鼻咽喉科外来が週に１回となってしまった所や耳鼻科の常勤医が１人の病院があります。当病院も例外にもれず、今年の４月より常勤医が１人となってしまいました。今現在、銚子市には常勤の耳鼻咽喉科医は３人だけとなっています。（そのうちの１人は高津先生のお父様です。）

ただし、木曜日には銚子にゆかりのある、岡田先生が外勤でサポートしていただいているおかげで、患者さんとのコミュニケーションは徐々に取れてきた気がいたします。金曜日、土曜日にサポートしていただいている先生にも大変感謝している次第です。（齋藤先生、信清先生、関先生、富澤先生ありがとうございます。）

話は変わりまして、今年の11月に新病棟が完成し、耳鼻咽喉科外来もその場所に移る予定です。（この文章がお読みになられる頃には稼動していることでしょう。）こちらの新病棟の外来は、院長先生のご好意によりほぼ個室化された診察室となりました。（診察室は２ブースあります。）電子スコープシステム、外来処置用顕微鏡（１ユニットにそれぞれ）等、充実した外来が完成する予定です。充実した診療機器に負けない様、良質な医療を患者さんに提供すべく日々努力したいと考えています。



新旧病棟

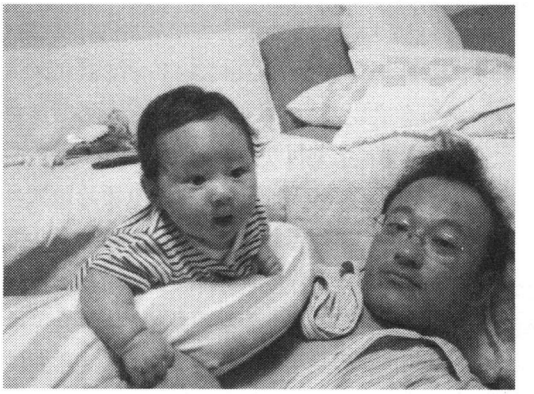
新棟（玄関前）

OB通信

芋川亭日常（乗）

芋川耳鼻咽喉科クリニック　芋川　英紀

「院長、院内の暖房が故障です」朝、職員開口一番の報告。師走の寒々とした待合室で患者さんが寒そうに両手を擦り合わせながら恨めしそうに待っている。「寒い、本当に寒い、嗚呼、参ったな」この夏場は二度の冷房故障でえらく往生した。暑さは何とか凌げるが、冬のこの寒さで患者さんを待たせるわけにはいかない。「修理はどこに頼めばいいのだろう。東京ガスかな。ま、まずは連絡してみよう。」結局５回ほどあちこちのセクション・支店をたらいまわしにされたあげく「年間保守契約書を郵送するので契約成立の上、後日修理に来る」とのこと。嗚呼。仕方無しに一時しのぎの為に石油ファンヒーターを職員に買いに走らせる。しかし、買ってきたはいいものの灯油は忘れたとのこと。「そのくらい、気を利かせろよ。」と怒鳴りたいところであるが、ここでみだりに叱りつけると、「辞めます」なんて言い出すのである。「辞めます病」はあの忌まわしきSARSのごとく容易に感染する。一人が言い出すと必ずそれにつられて「私も」と言い出すのが常であるからして、うかつに些細なことで職員を叱れない。別に職員を甘やかしたい訳ではないが、職員の欠員補充は実にまったく本当にそれはもう大変なことなのである。新聞に折込み広告を出して面接をする。もちろんかなりの金額を要する。うかつに人格的に問題のある人物を採用すると、狭い職場ではそれが院内のいさかいの火種になる。であるから面接は厳しく人物評価をせねばならぬ。女房選び並みの真剣勝負である。ものすごいエネルギーを使う。いつか５名の面接の最中にストレスによる眩暈発作に襲われた。いざ採用しても実戦力として稼動するのには２ヶ月位はかかる。もちろん「職場になじめない」とすぐ辞めてしまうケースもある。当院では、ペーパーナースを雇ったものの、鼻出血の治療介助をさせたら、翌日退職願いの電話があり、そのままトンズラされた。そういうケースではまたすごろくは振り出しである。勤務医ならパラメディカルに不満があれば、いい放題、叱り放題。「嗚呼、勤務医時代が懐かしい。」



父さん、酔っぱらい

話はすっかりそれたので戻る。結局、石油ファンヒーター始動はお昼をまわった。そして夕方「院長、ファイバースコープの電球が点灯しません。在庫が無いようです。」「嗚呼。またか、あれだけ在庫確認を徹底するように指導していたのに…嗚呼…嗚呼」先週、待合室の蛍光灯が壊れた、このとき「在庫調査と備品確認を徹底するように指示をしていただろうが」と心の中でつぶやく。芋川亭日常。

診療終了後に、投書箱をチェックする。また要望のメモが投入されている。内容は「駐車場が無いと不便です、いまどきの医院は五台位の駐車場を確保しているのが普通だと思います。是非ご配慮ください。」これで今月３回目の同じ要望である。筆跡が違うから、また違う患者さんからの投書である。鎌倉は地価がとても高い、駅至近の医院周辺の駐車場の相場は１台分３万円以上である。５台も確保したら、うかうかすると釜の蓋が開かなくなる。「仕方ないな、無視」と心に決める。投書箱には、いろんな要望が寄せられる、「夏場待っていてのどが渇くのでビル内に清涼飲料水の自販機を設置してほしい」すぐ隣にスーパーがあるでしょう、お母さん「トイレの暖房便座の温度が低くてお尻が冷たい」お前のケツの皮が厚いんだよ、お姉さん「待合室の雑誌類にコミックが少ない、出来ればスポーツ紙も用意してほしい」本屋じゃないのよお兄さん「待合室のイスが硬い、もう少し座り心地の良いイスにしてほしい。」ホテルのロビーじゃござんせんよ、おばあさん。言いたい放題・書き放題である。嗚呼。たまには「院長センセ、ス・テ・キ☆、この番号に電話してね、今日診てもらった○○チャンでーす。お食事でも誘ってくださーい。」なんていう、メッセージでも入っていてほしいものである。

さてさて、雑音はこっちに置いといて、いろいろあったが今月も何とか乗り切った。給料計算のミスも無く、取引業者への支払いも全て無事済んだ。初夏の納税自動引き落としの後、医院用決済銀行口座の残高確認は要注意である。昨年はうっかり残高不足で取引業者からの支払い催促電話のミンミンゼミの約32匹の一斉大合唱で診療がストップしてバクバクと動悸がした。「救心」を３日舐めて切り抜けた。嗚呼。

さてさて、今夜は月初めのレセプトの打ち出しである。レセプト作成は開業医にとっては診療に次ぐ大変重要な作業である。もちろんプリントアウトも大変であるが、それからのチェックも一苦労である。打ち出されたレセプトは金券と同じである。銀行に持っていくと担保になる代物である。お札の印刷と同じなのである。おや？「あれー、プリンターの印刷トナーのインク切れだ…嗚呼、嗚呼、嗚呼、嗚呼」、「いつものことなのに、確認しとけよ。お前さんたち従業員の給料の源だぞ」また心の中で叫ぶ。嗚呼。芋川亭日常。

診療から便座の温度調整、電球交換から、業者への支払い、給料計算にあれこれ、あれこれ、市井の開業医院長は「あんたがやらねば誰がやる」である。院長職のしのぎはそれは、それは、大変なのであります。診療にせいぜい三割、それ以外のパワーは、おおむね雑務に消える。嗚呼。今日のレセプト打ち出しはお預け、締め切りは２日後、「ま、何とかなるか」。こういう時には、決してうろたえたり、あわててはいけないのです。死期を早めます。心穏やかに、昔たずねた日光の素晴らしい紅葉の風景とか、いつか見たハワイのワイキキ海岸の金髪の姉さんのハイレグのたわわなお尻などを「ボワーッ」とイメージして心静めるのが精神衛生上いいのであります。

芋川亭日常でした。お後がヨロシイヨウデ。

新入局員紹介

平成16年度入局

大阪から来ました

東芝林間病院
矢野　裕之

はじめまして。縁あって大阪よりやって参りました。

大阪医科大学卒業後、大阪大学病院および関連病院で約8年間臨床に従事しておりました。その後、医療関係の社会だけに身を置くのにあきたらなくなり、家業の医院を手伝う傍ら毎年まとまった期間を取って世界各国を放浪していました。これをお読みのみなさまにはえらく珍しいひとが来たなあと思われる方も多いことと思います。みなさまが寛大な目で見てくだされば幸いです。

この数年の生活からとくに何か心境の変化があったというわけでもないのですが、このたび一念発起して聖マリアンナ医大の門を叩きました。

これからこちらの医局員としてバリバリと仕事をこなしていきます、と言いたいところなのですが、ここ数年の間に病院のあり方もずいぶん変わったようで、今は日々の病院勤めに目を白黒させております。

みなさまのご指導ご協力を得て、楽しくそして充実した仕事をしていきたいと思っております。どうぞみなさまよろしくお願いいたします。

研修医制度の中で

三上　公志

平成16年4月に研修医となり、気がつけば1年半が過ぎました。私たちより国から決められた研修医制度が始まり、私は麻酔科、救命救急、一般外科、循環器内科、小児科、地域医療、産婦人科、精神科とさまざまな科を回り、経験してまいりました。

この聖マリアンナ医科大学病院では2年間の研修の中で自由に選択できる機関は6ヶ月しかなく、最後に回ってそのまま3年目となることが良いのではないかと考えた私は、その6ヶ月を2年目の最後にもっていきました。しかし、この1年半の間、内科希望の同期が内科で生き生きと働いているのを見聞きすると、「早い時期に耳鼻科に回るようにしたほうがよかったのでは」と焦りを感じることもありました。待ちに待った耳鼻科を回っている今では、その焦りもなく、耳鼻科で働ける喜びでいっぱいです。

耳鼻科での研修は3週間目とまだ短く、病棟での業務がやっとの状態ではありますが、腫瘍班の一員として日々忙しくも充実した毎日を送らせていただいております。この貴重な6ヶ月間を大切にし、諸先輩方のような立派な耳鼻科医を目指し、日々努力したいと思います。何かとご迷惑をおかけすることと思いますが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

ありがとう

ありがとう・・・

西野耳鼻咽喉科　西野　裕仁

年数	勤務先	お世話になった先生方
1年目	西部病院、本院	大橋先生、赤尾先生、芋川先生、富澤先生
2年目	スーパーローテーション	
3年目	東横病院	越智先生、渡辺先生、杉山先生、赤澤先生、中村先生
4年目	稲田登戸病院（6ヶ月）	荻野先生
	西部病院（6ヶ月）	大橋先生、岡田先生、釼持先生
5年目	西部病院	大橋先生、岡田先生、釼持先生、梅原先生
6年目	西部病院	大橋先生、岡田先生、釼持先生、春日井先生
7年目	東横病院	越智先生、杉浦先生
8年目	京浜総合病院	
9年目	稲田登戸病院	

平成8年入局の西野です。このたび故郷の小金井市にて開業いたしました。父の遺した会社の社長業との「2足のわらじ」です。社長も院長も慣れない仕事ですが、いろいろな方々のお力添えのおかげで、なんとかうまくいっております。

医局員としての年月を振り返ってみました(表)。先輩から教えて頂いた事を、自分自身で学び、後輩に伝えることが大切だと思っておりました。諸先輩方には、多くの教えを賜り感謝しております。後輩のみなさんとは仕事後の思い出の方が多く、良い先輩ではなかったと反省しています。

研究面では、大橋先生のご指導のもと学位を授かりました。大橋先生には学術だけでなく、人間として大切なものを教わりました。学問の難しさともに、夢を追い求めることの楽しさ。自分への厳しさとともに、他人へのやさしさ。大橋先生と出会わなければ、自分はもっともっと未熟で、それに気がつかない人間になっていたと思います。この場をお借りして、心から「ありがとうございました。」と言わせていただきたいと思います。

研修医制度が変わって、従来の医局制度が古臭いもののように報道されています。自分は医局から多くの恩恵を受けました。人生の岐路に立ったときに相談に乗ってくれたのは、大橋先生です。またその判断を理解し、なぐさめてくれたのは肥塚教授です。開業後も院長として多くのことに悩みます。そんな時に相談できるのは、医局の先輩です。自分にとって医局での研鑽の日々は、何物にもかえがたい大切な日々です。これからは同門会の一員として、医局のために貢献させていただきたいと考えています。

第15回日本頭頸部外科学会のご報告と御礼

新潟大学　高橋　姿

第15回日本頭頸部外科学会を平成17年1月21日（金）・22日（土）に新潟市において開催しました。四門会同窓会の皆様には絶大なるご支援を賜り、お陰様で無事終了することができました。遅まきながら深く御礼を申し上げます。

本学会は今回で第15回の比較的歴史の浅い学会で、会員数も約1000名程ながら、参加者は半数を超え、演題数もビデオ演題40題、口演154題の計194題と過去最多となりました。耳鼻咽喉科・頭頸部外科の全領域にわたり、活発な討論が展開されたと思います。

特別講演には、わたしが聖マリアンナ医科大学時代に3ヵ月程留学していたイタリアのM. Sanna先生に、頭蓋底外科に関する講演をお願いしました。私が主催する学会に特別講演の演者として来日してくれることは、以前から約束してあり、この度実現した次第です。お陰様で若手医師には大変刺激的で好評な講演内容となりました。

開催にあたり何より心配だったのは、学会3ヵ月前に発生した新潟県中越地震の影響でした。特に上越新幹線の脱線事故は参加者の交通に大きな障害となる可能性が高く、加えて開催期間は冬季であり、新潟では悪天候、豪雪の心配も重なりました。しかし、新幹線も普及し、天候にも恵まれ無事終了することができました。

終わってみれば盛会であったと一安心した次第ですが、これも四門会の先生方による物心両面のご支援の賜と思われます。改めて深く御礼を申し上げます。今後とも宜しくご指導の程、お願い申し上げます。お元気にお過ごしください。

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会会則

第1章　総　　則

第1条（名　称）

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会と称する。

本会は、通称を四門会と称する。

第2条（事務局）

本会は、事務局を聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室内に置く。

第2章　目的および事業

第3条（目　的）

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の進歩発展と学術事業に対する援助を行うとともに、会員相互の学術研鑽並びに親睦を図ることを目的とする。

第4条（事　業）

本会は、前条の目的を達するために、次の事業を行う。

（1）　学術研究会および講演会等の開催

（2）　総会および親睦会の開催

（3）　四門会誌・名簿・その他出版物の発行

（4）　聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の後援

（5）　その他、本会の目的を達成するのに必要な事項

第3章　会　員

第5条（会員）

本会は、次の者をもって会員とする。

（1）　聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室在籍者

（2）　聖マリアンナ医科大学関連教育病院耳鼻咽喉科在籍者

（3）　本会の目的に賛同し会長あるいは理事会において承認された者

第6条（会員の入会手続）

（1）本会に入会を希望するものは、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、理事会の承認を得なければならない。

（2）前条（3）項に該当する者は、会長あるいは理事会の推薦を得た後、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、総会で承認を得なければならない。

第7条（会　費）

（1）　会費は細則に定めるところにする。

（2）　会費は前納とする。

第4章　役　員

第8条（役員）

本会は会長1名、副会長1名、理事数名、事務局長1名、監事2名を置く。

第9条（役員の任期）

（1）　本会の役員の任期は、原則としてその都度議を得るものとする。ただし、再任を妨げない。

（2）　役員に欠員が生じた場合、補欠役員がその職務を行う。

補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。

（3）　役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、その職務を行う。

第10条（役員の職務、権限）

（1）会長は本会の代表し、会務を総括する。

（2）副会長は会長に支障が生じた場合、その職務を代行する。

（3）理事は理事会を構成し、この会則に定めるものの他、本会の業務を議決し、業務を執行する。

（4）監事は本会の業務ならびに会計を監査する。

（5）事務局長は理事会のもとに事務局を統括し、会務の遂行にあたる。

第11条(役員の選任)

（1）理事および監事は会員により推薦され、理事会の議を得て総会にて承認得たものとする。

選出の方法は細則による。

（2）理事の中に推薦理事と名誉理事を置き、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授をこの推薦理事とする。また、代表教授退任後は名誉理事とする。

（3）会長、副会長は理事の互選とする。

監事は理事および事務局長を兼ねることはできない。

第5章　会　議

第12条（総会）

（1）総会は年1回会長が理事会の議を経て、これを召集する。

（2）総会は会員の3分の1以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。

（3）総会において会長は議長とし、事業計画ならびに収支予算についての事項、事業報告および収支決算についての事項および本会の運営に関する重要事項の承認を受けなければならない。

（4）総会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。

（5）会長が必要と認めた場合、あるいは会員の要望がある場合において、会長は理事会の議を経て、臨時総会を召集することができる。

第13条（理事会）

（1）理事会は会長がこれを召集する。

（2）理事会は現理事数の3分の2以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。

（3）理事会において会長は議長となり、本会の事業を企画し、必要な一切の事項を審議し運営する。

（4）理事会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。

（5）監事は理事会に出席し意見を述べることはできる。ただし、票決に加わることはできない。

第6章　事務局

第14条（事務局）

（1）本会の一般業務を処理するために、本会の事務局内に事務局を置く。

（2）事務局の構成は事務局長1名、事務局員若干名とし、選出方法は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室医局に一任する。

（3）事務局長は理事会に出席する。

第7章　会　計

第15条（本会の経費）

本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあてる。

第16条（会計年度）

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終える。

第8章　会則の改正

第17条（会則の改正）

本会則を改正するには理事会の審議を経て、総会の出席者の3分の2以上の議決を得なければ変更することができない。

第9章　その他

第18条（その他）

本会則を施行するに必要な細則を別に定める。

＜附則＞

第19条（本会則の発効）

本会則は平成9年12月1日から発効する。

本会則は平成12年12月3日から発効する。

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会細則

第1条 本細則は会則第18条によりこれを定める。

第2条（会費）

（1）会費は年会費とし、次のごとく定める。

・聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室および同関連教育病院現医局員の会員は年額5,000円

・その他の会員は年額10,000円

（2）70歳以上の会員に対しては理事会の議を経て、会費及び同門会参加費の免除を行い、名誉会員とする。

第3条（役員の選出）

（1）役員の定数は、理事　15名(聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室現医局員より5名以上、前者以外の会員より10名以上)

監事2名

2名以上連名による推薦の届出により資格を得るものとする。

（2）選挙管理委員会は、任期満了の前年度総会に次役員の選挙が行えるように準備をする。

（3）選挙管理委員会は、立候補者が定数に満たない場合、あるいはなき場合、立候補の推薦を理事会に依頼する。

（4）補欠役員は、理事会で選任し、後日総会で承認を得るものとする。

（5）推薦理事、および名誉理事は前項（1）の定数には含めない。

（6）会長および副会長の選任は理事の互選による。

第4条（慶弔）

会員にかかる慶弔は理事会に一任する。

＜附則＞

第5条（本細則の発効）

本細則は平成9年12月1日から発効する。

本細則は平成11年11月28日から発効する。

本細則は平成12年12月3日から発効する。

第8回理事会議事録

平成16年11月28日

1. 会員数、内訳（平成16年11月28日現在）
総会員数；129名
うち現医局員42名、名誉会員5名

2. 会員異動
吉野　清美　平成13年3月　退職
（よしの耳鼻咽喉科クリニック）
釼持　　睦　平成16年3月　退職
（むつみクリニック）
勝見　直樹　平成16年3月　退職
（耳鼻咽喉科　有馬クリニック）
梅原　　毅　平成16年3月　退職
（島根医科大学　耳鼻咽喉科学教室）

3. 新入会員
岡村　淳　平成6年3月
群馬大学医学部卒
平成16年8月1日付けで聖マリアンナ医科大学研究員、及び登録医となる。
正式に医局員となるのは平成17年4月1日。

4. 会計報告（平成16年度）

	収入	支出
平成15年度繰越金	¥1,714,516	
平成16年度年会費	¥　845,000	
広告掲載費	¥　60,000	
会場費	¥　450,000	
四門会誌第11号印刷費		¥　400,000
四門会総会会場費		¥　315,231
四門会集合写真		¥　195,000
通信運搬費		¥　31,525
慶弔費		¥　58,694
計	¥3,0690516	¥1,000,450
平成17年度への繰越金	¥2,069,066	

5. 平成17年度役員人事
平成16年度　同門会役員
会長　　肥塚　泉
副会長　菊地原基敬
推薦理事　肥塚　泉
名誉理事　荻野洋一、竹山　勇、加藤　功
理事　　飯田　順、岩澤　寛、岩武博也、上杉恵介、大竹英夫、大橋　徹、越智健太郎、小野泰三郎、菊地原基敬、佐藤茂樹、高橋　姿、堤康一朗、戸田行雄、中島博昭、渡来潤次
（敬称略50音順）
監事　　石倉幹雄、岡田智幸
事務局長　関　良武

6. 海外居住者の年会費
海外に居住している会員からも会費を徴収する。

7. 平成17年度総会日時
日時：11月27日（日）
場所：大学（理事会は、会議室で行う）
学術講演会については、今後も継続し、院外の講演者も呼んで行く。

8. 訃報
坂本園子先生お父上
朝倉美弥先生お母上
山田善一先生お父上

9. その他
日本宇宙航空環境医学会　開催予定
日時：平成17年11月10日～12日
場所：神奈川県医師会総合医療会館

10. 退会希望者
平沼一良先生から退会の申し出あり、ご本人に理由を確認した後検討する。

11. 監事
退職してから7～8年経った医局長経験者から検討する。

12. 会則の変更
第9条（1）、第11条（1）、（2）、細則第3条（1）の変更。
細則第3条（3）、（4）の削除。

編集後記

我が聖マリアンナ医科大学は、35周年を迎える。20周年を過ぎてから四門会が発足し、四門会誌が発刊された。ここ15年で時代は大きく変遷し、患者本位の、さらに時代のニーズに合った医療が望まれ、それに合わせるあるいは場合によっては追い付くという医療には厳しい時代となってきた。何が大切で、何がまずやらねばならないのか、取捨選択が難しい。

何でもマニュアル化が進んでいる現在、マニュアル化できない医師-患者関係で最も重要なのは、「間（ま）：距離あるいはタイミング」ではないか？と思うようになってきた。患者を「さま」といいながら、診療は同じ。ただ、患者を煽てすかすに過ぎない。むしろ、「さん」は2人称で距離が近づく、患者もものを言い易い。だれかが、「医者は人を怒ってお金を貰える唯一の職業だ。それで、なにが人をさま扱いするのか」と。それも一理あるが、必要で怒る場合もあり、はっきり言えるのは2人称からである。「さま」では怒れないし、まして身内ではないので、いい距離としての「間」が必要である。

もう一つタイミングの「間」がある。歌舞伎でもお能でも「間」が意味を持つ。患者に病状を説明する場合、一方的に説明するのではなく、患者に話させる「間」をもつのが良いと医事問題委員会での雑談である。また、予測できない急変や治療効果のあがらない患者やその家族に説明する際にもグッドタイミングである「間」があるようである。

先輩教室員の「間」の取り方を学び（まねび）、「先生は、誰々先生に似ていますね」と言われた時、やっと諸先輩の粋（あるいは域）にようやく達したのかなと思う今日このごろである。

（文責：岡田智幸）

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会
「四門会」第13号
平成17年11月発行

発　行　聖マリアンナ医科大学
耳鼻咽喉科学教室同門会
電話　044（977）8111（代）
制　作　株式会社　教育広報社